

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和7年度第5回）議事概要

日 時：令和7年8月29日（金）10：30～11：30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第一会議室 ※Webex 使用

出席者：間野博行理事長、大島正伸理事、平沼直人理事、山内英子理事

本田麻由美理事、小野高史監事、近藤浩明監事、瀬戸中央病院長、土井東病院長

I. 前回（令和7年度第4回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を平沼理事と近藤監事に依頼。

II. 審議事項

なし

III. 報告事項

1. 広報実績等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・「Nature」で発表された腸内細菌に関する論文（40 ページ）については、基礎研究として世界をリードする成果であり、大変素晴らしいことである。今後の臨床応用に向けて、研究が進んでいくことを期待している。
- ・この研究は基礎研究の大きな成果であり、今後の臨床応用に期待している。引き続き成果を出してほしい。
- ・理化学研究所や産業技術総合研究所は、共同研究チームとしてどのような役割を担っていたのか。
- 両者は細菌の専門家としての役割を担っていた。腸内細菌は、嫌気性であり、酸素がない状態で増える細菌である。そのような細菌を単離して同定する専門性は当センターにはないため、共同研究に参加していただいた。
- ・患者体験調査（41 ページ）について、1 回目の調査（2014 年）から今回の 3 回目の調査（2025 年）まで 10 年以上経過しており、この間、がん治療と仕事の両立に対する意識をはじめ、世の中でかなりインパクトの大きい変化を確認できたのではないかと。
- 2024 年と 2019 年の比較では、仕事と両立のために社内制度（有給休暇など）を利用した方は、2019 年の結果と比べて約 14%増加している。2014 年の資料が手元にないが、恐らく 2014 年と比べても変化があったと考えられる。今後は 1 回目以降の経年変化を意識しながら調査報告書をまとめていきたい。
- ・患者遺族調査（42 ページ）について、がん患者の遺族から話を聞く視点は、医療側での視点とは異なり、貴重な調査であると考え。引き続きこの調査に取り組んでいただきたい。
- この調査は、医療の質を医療を受けた側の主観によって評価した内容となっており、大変意義のある調査であると考えている。本来は、患者様ご本人に調査をしたいところだが、人生の最終段階に差し掛かっている中での調査が非常に難しいため、代わりにご遺族から調査をしている。引き続き 4、5 年のタームで調査を続けていきたい。

2. 国際戦略について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・国際研究について、アメリカでは国務省が国際研究者に対しバックグラウンドチェックを厳しく行うなど、門戸を閉ざしつつある。当センターも国際的な活躍をしつつ、バランスもとって、このようなチェックも行っていくことになるのか。

- 貿易安全保障は重要な観点であるため、これも意識しながら進めていきたい。
- ・G7 Cancer と C8 Consortium の具体的な活動の違いについて教えていただきたい。
- G7 Cancer はがんの疫学・ポリシーメイキングにフォーカスした連携である一方、C8 Consortium は共同研究や人材交流の色彩が強く、世界のリーディングセンター同士がトランスレーショナルリサーチで連携することにより、インパクトのある研究を目指すことが目的となっている。これから何をどうしていくかを決める段階にあり、我々が必要としていることを盛り込んでいければと考えている。
- G7 Cancer や C8 Consortium での活動は、国民全体にも広く公表していただきたい。
- C8 Consortium は世界のトップが集まっており、アジアでは当センターのみである。メンバーに選ばれたことは、非常に光栄なことである。国民に対してどのようにアウトリーチしていくかについても、今後検討していきたい。
- アウトリーチに関して 1 点補足すると、国際戦略室では新たに「Linkedin」というビジネス SNS の配信を開始した。今後はこの機能を更に活用していきたい。
- ・当センターとアジア諸国との関係については、どのように考えているのか。
- アジア諸国の中では、これまでの先生方の努力により、様々なネットワークでリードしていると考えている。当センター内の知識の共有はもちろんのことだが、リーディングポジションは常に取っていききたい。また、アジアで学んだことを活かしてグローバルに展開していきたいと考えている。

3. 全ゲノム解析等に係る事業実施組織について 資料に沿って報告された。

4. 投資委員会報告 資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・労務専門職 1 名の採用（57 ページ）に関して、最近ではアウトソースしている事例が増えている。当センターはどのような考えを持っているか。
- まずは労務専門職を置くことを考えているが、ご指摘のようにアウトソースも検討しなければいけないと考えている。
- 将来的には、専門的な能力を有する組織にアウトソースすることは十分に考えられる。

5. 7 月医業件数 資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・4 月～7 月までの医業費用と医業外費用がかなり増えている。人事院勧告や働き方改革の影響が大きいと考えられる。昨年度と比べると厳しい状況にあるため、注意してほしい。
- 人事院勧告が再び出されたことを受け、当センターが黒字経営を維持していくためには、相当な努力が必要である。厳しい状況ではあるが頑張っていきたい。

以上